

ホンジュラス国算数指導力向上プロジェクトにみる授業研究

Lesson Study in the Case of JICA Mathematics Project (PROMETAM) in Honduras

磯田正美*, 關谷武司, 木村英一, 西方憲広, 安部しおり, 齊藤一彦, 小西忠男

ISODA M.*, SEKIYA T., KIMURA E., NISHIKATA N., ABE S., SAITO K., KONISHI T.

筑波大学人間総合科学研究科*, ホンジュラス国算数指導力向上プロジェクト

*CRICED, University of Tsukuba., PROMETAM

[要旨] ホンジュラス国では、青年海外協力隊員による 10 年を超える活動を踏まえて、指導書の開発・普及を通して留年率の改善をめざす 3 年間の JICA プロジェクトが 2003 年 4 月に発足した。このプロジェクトでは、その指導書の普及をめざす現職教員の短大資格取得研修と、協力隊員による現職教員との個別授業研究が推進されている。

キーワード 数学教育 授業研究 指導書 青年海外協力隊 留年率

1. プロジェクトの概要

プロジェクトに先駆けて關谷によって行われたベースライン調査では、ホンジュラス国では、高い留年率によって学年毎の在籍者数が著しく減少する傾向にある(図 1)。留年の主原因には、算数(数学)と国語(スペイン語)の成績不振が数えられ、子どもの立場からも留年者(Repitentes)、進級者(Aprobados)ともに算数は国語以上に難しい教科に数えられている(図 2)。難しさの背景には教員の学力不足による説明のなさや、図書不足が認められた。そのような背景のもと、算数の指導書・作業帳の開発、普及を通じて教員の指導力を改善し、留年率の改善をめざすプロジェクトとして PROMETAM は発足した。

これまで算数数学教育関連 JICA プロジェクトと比較した場合の PROMETAM 固有の特徴は、そのプロジェクトで開発された指導書が現職教員短大・大学資格取得研修(PFC)用テキストとして使用されることを通じて普及が図られている点であり、今秋には開発教科書が国定教科書として採用される点である。そして、もう一つの特徴は、このプロジェクトが青年海外協力隊の活動成果の発展として発足し、JICA プロジェクトでははじめて青年海外協力隊員の活動を前提に企画された点である。

図 1 . 在籍者数(關谷)

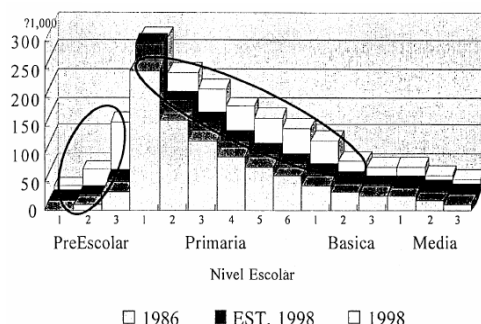
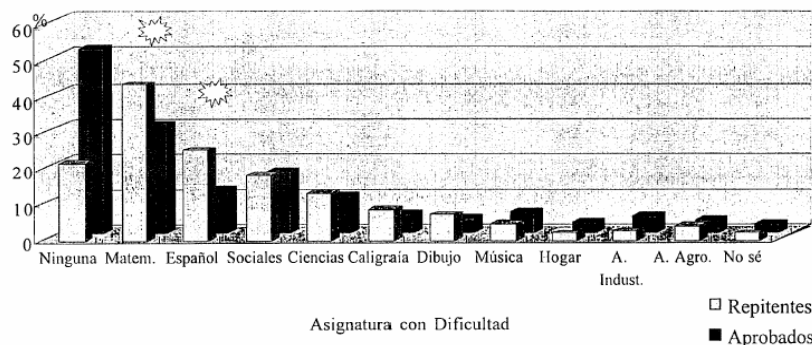


図 2 . 難しいと感じる教科(關谷)



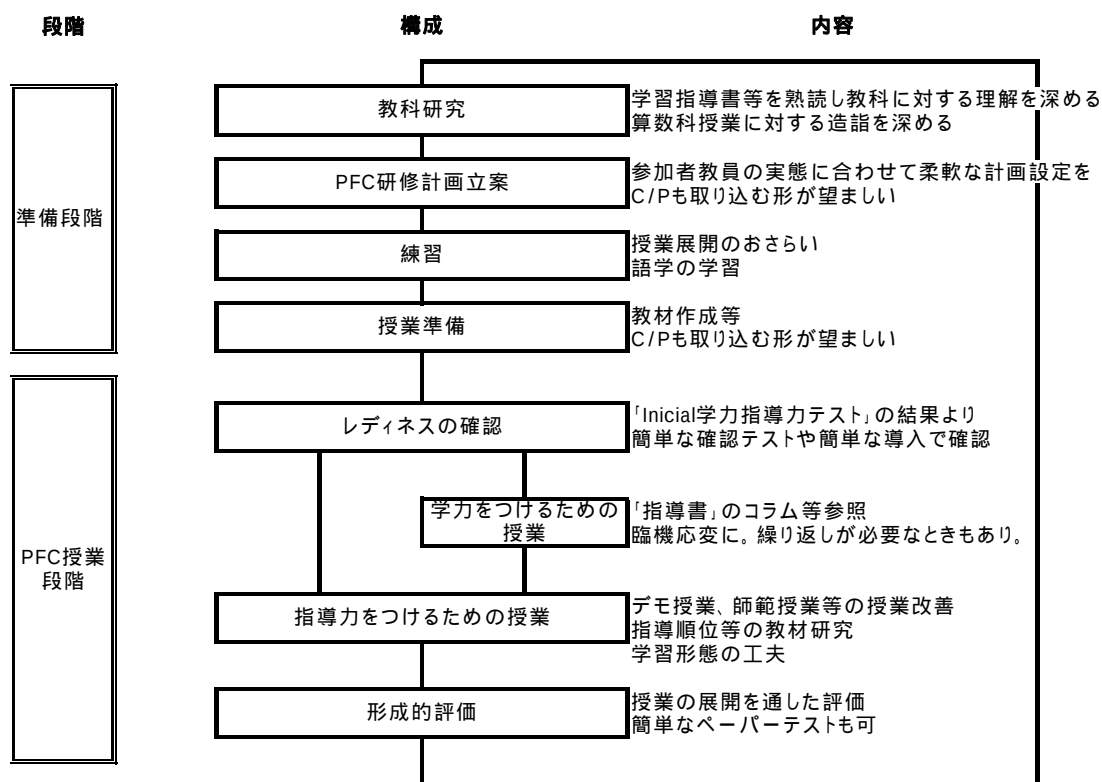
国家カリキュラムそのものの開発に多国が関与しえることは、そこに高い信頼関係があることの証左である。その背景には、派遣専門家の精力的な活動、そして、10 年を超える青年海外協力隊による地道な活動実績を通じてホンジュラス国内で認められた日本の算数数学教育の高い質の評価実績がある。

2 . PROMETAM における授業研究

PROMETAM における授業研究は、二つの次元で展開している。一つは、PROMETAM においてフォーマルに位置づけられた現職教員短大資格取得研修（PFC）による技術移転形式での研修である。師範学校において実施される PFC 講師を対象に、PROMETAM では、派遣専門家等による研修が行っている。特にオコテペケ、コロン、エルパライス 3 県では、日本から派遣された現職教員を中心とする青年海外協力隊員が講師となって、直接研修を

図 3 PFC研修の流れ:イメージ図 （ 関 谷 ）

2002.11



行っている（図 3 ）。

PROMETAM の指導書は、日本の指導書の展開朱書き部分を中心に、教材観を書き添える形で開発されている。指導書普及のための講義は、何故、そのように教えるのかを基本としつつ、教具作成などの Hands-on や、聴講者によるプレゼンテーションを交えて実施されている。

もう一つの授業研究は、青年海外協力隊員の個別活動として、フォーマル・インフォーマルに行われる学校訪問型授業研究である。協力隊員が PFC で講習した内容が、個別の学

校、教師においてどのように実現しえるのか、それを、個の次元でともに考えようとするきめ細かな対応が、そこでなされている。

指導書開発並びに授業研究実施上の課題は、教育課程の著しい違い、言語・文化的差異から○○方式の適用というような発想を超えた教材研究が求められる点である。その根源的な教材研究は、日本側には、既存教材を見直す契機としての画期的な価値を備えている。

[参考 URL]<http://www.prometam.hn2.com>